

## 平成 18 年度砂防学会研究発表会要領

### 1. 発表者の資格

砂防学会員に限ります（ただし、グループでの発表の場合は、代表者が会員であること）。

### 2. 発表内容

土石流，山崩れ，表面侵食，地すべり等の土砂災害・火山災害およびそれらの防止工事，斜面緑化，森林水文，森林の影響，砂防と環境，砂防の社会的評価に関するもので，原則として学会等に未発表のものに限ります。

### 3. テーマ別セッションについて

平成 18 年度研究発表会においても，一般口頭発表並びにポスターセッションの他に，以下の 4 課題のテーマ別セッションを設定致します。

### 4. 発表方法

テーマ別及び一般口頭発表は、パソコン接続のプロジェクトのみで行います。発表者は、USB メモリーか CD にファイルを格納して持参してください。パソコンを持ち込まれても構いません。OHP およびスライドは使用できません。（平成 17 年度と変わっていますのでご注意ください。）

企画テーマ： **効率的な減災施策のための研究の方向性**

コーディネーター：東京農工大学大学院共生科学技術研究部 石川芳治 教授

セッションの趣旨：

砂防学会は、広く土砂災害に関する防災科学技術の振興を図り、もって国土の保全、国民生活の安全等に寄与することを目的としています。その目的の性格から、砂防における研究は、防災・国土保全施策と深く関わっているといえます。そのため、より効率的に減災効果を上げるためには、現在の社会的および技術的条件を踏まえた行政的手法による施策の効果を最大限発揮させることが望ましいと考えられます。そのためには、行政担当者と研究者の円滑な意思疎通を図ることが重要であり、砂防学会はまさにその機会を提供すべき場であるといえます。本セッションでは、今現在の行政施策がターゲットとしている部分を明らかにしたうえで、その効率化を図るために取り組むべき研究課題について考えます。

一般テーマ 1： **地震による地すべり・崩壊**

コーディネーター：新潟大学農学部 川邊 洋 教授

セッションの趣旨：

平成 17 年は兵庫県南部地震から 10 年目の節目の年であり、前年に新潟県中越地震が発生したことも相まって、地震による斜面災害が改めてクローズアップされています。この

10年間だけを取りあげても、新潟県中越以外に、鹿児島県北西部、三宅島、鳥取県西部、芸予地方、宮城県沖、宮城県北部、十勝沖、福岡県北部など多数の地震が発生し、そのたびに地すべり・崩壊などの斜面災害が頻発しました。一方で、それらの災害の調査から実態の把握が進み、地震による地すべり・崩壊の発生原因やメカニズムの解明、発生予測方法の開発、ハード・ソフト両面の対策など、多彩な研究が進展してきたのも事実です。本セッションでは、これまでの調査・研究の歴史を顧み、現在の進展状況を概観して、今後の展望について議論したいと思います。したがって、調査報告を始め、斜面災害の発生メカニズムや予測方法など個別の研究テーマは勿論、今までの研究・調査の歴史を振り返って、今後を展望するような総説的な内容の報告も歓迎します。

#### 一般テーマ2： 最近の豪雨による土砂災害

コーディネーター： 静岡大学農学部 土屋 智 教授

セッションの趣旨：

このセッションは、新潟、福井、徳島、三重等の各地域において発生した土砂災害について行われたテーマ別セッション「平成16年度の土砂災害について」に引き続き開催するものです。平成17年においても、9月上旬に九州地方を襲った台風14号に伴う記録的豪雨により、宮崎県を中心に22名の人的被害を伴う甚大な土砂災害を生じています。近年の台風時の豪雨は、平成16年に指摘されているように、連続雨量、時間雨量ともにその規模が大きくなってきており、土砂災害をもたらす個々の斜面崩壊、地すべり、土石流についても、その規模を大きくしていることが注目されています。今回も、このような台風時や前線の活発化に伴う豪雨により発生した土砂災害について、発生規模、発生原因、機構、特徴などの多面的な分析を試み、土砂災害の軽減に資することを考えます。

#### 一般テーマ3： 砂防構造物・工法

コーディネーター： 京都府立大学大学院農学研究科 松村和樹 教授

セッションの趣旨：

土砂災害に対する社会ニーズの多様化、少子高齢化、環境の内部目的化、平成16年6月の景観法の制定等から、ハード対策である砂防構造物・工法には、安全を確保しつつ、コスト縮減、河川環境や景観への対応等が求められています。また、設計法では従来の仕様型設計法から構造物に対する要求性能を満たす性能設計法へ転換が始まっています。このように砂防構造物・工法を取り巻く環境は大きく変化してきており、そのためには砂防構造物の効果検証やその構造上の課題を踏まえた上で、砂防構造物・工法や設計法さらに構築材料を考えることが必要です。本セッションでは砂防構造物の効果等を検証し、新たな砂防構造物・工法、設計法、構築材料について考えます。